

## Q 「研究分野もしくは、担当科目の魅力をお教えください。」

会社では「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」という要素が重要となります。そのうち、会計学では、特に「カネ」の視点から考えていきます。もちろん、何事においても根底にあるのは、必ず「ヒト」であると思っています。しかし、実際の友達付き合いで考えてみても、お金を貸したのに返してくれなければ友達関係は壊れてしまいます。これは社会でも同様です。会社は様々な経営活動をおこなって利益(もうけ)があったとしても、なぜか倒産してしまいます。それは、払うべき時に払えるお金を持っていなければ、信用を失い、他の会社が相手(取引)をしてくれなくなるからです。これを黒字倒産といいます。では、このようなことを防ぐためにはどうすればいいのでしょうか。そこで会社では、資金繰りということをしています。この資金繰りとは、いつ、いくらお金が入ってきて、一方で、いつ、いくらお金を払わなければいけないのかを把握し、お金を払うべき時に払えるようにするためのものです。これは一例に過ぎませんが、実際に経営者の立場で会社の運営(経営)を考える際に、「カネ」の問題は非常に重要なものとなります。このような問題は多岐にわたりますが、それに対処すべく、様々な立場から理論的に学べるのが会計学です。

## Q 「推薦する図書を教えてください。」

会計学に関する書籍は数多く出ています。その中には、「経営者のための…会計」のような、実務的なものも多くあります。しかし、大学において会計学を学ぶ際には、理論的な体系に沿ったものをお勧めします。もちろん、社会に出た時には前者のような実務書も役立つと思います。しかし、まずは基礎的な知識を学修することが、実務で活かせる会計には必要なはず。また、方程式の解法を学ぶために、まず四則演算の知識が必要であると同様に、会計学を学ぶためには、まず簿記の知識が重要となります。簿記は、財務諸表を作成するための世界共通のルールですから、簿記の基本書をしっかりと理解しましょう。



■企業と会計  
■原価計算論Ⅰ・Ⅱ

平井 裕久  
(ひらい ひろひさ)

学部では工学部で時系列解析を、大学院では会計学、応用統計学を学び、その後企業経営にも携わりました。一貫性のない道のりを歩んできましたが、この“無駄”を研究や教育に活かしていきたいと思っています。